

1. TCS 国際シンポジウム

都市問題再考：歴史・環境・メディア

Urban Issues Revisited: History, Ecology, Media

2024年1月27日[土]、28日[日]

会場：名古屋大学文系総合館7階 カンファレンスホール (対面のみ)

共催：科研費・基盤研究 (A) 23H0003「冷戦期東アジアを移動する身体芸術メディア・プロパガンダ」(代表：星野幸代)、科研費・基盤研究 (B) 21K00030「人口地理の原理的探究：規範倫理の直観的前提と哲学的・実践的含意の検討」(代表：鈴木真)、科研費・基盤研究 (C) 21K00831「天皇制とメディア：『皇室アルバム』関係史料の歴史的検討」(代表：河西秀哉)

後援：名古屋大学高等研究、大幸財団、名古屋大学国際会議助成金



都市は、政治権力、経済、文化の中心として、世界史の展開の上でも、文学や映像の表象の上でも長きにわたり重要な役割を果たしてきた。今日世界中の都市が、都市環境、インフラストラクチャー、資源、エネルギー、廃棄物、大気汚染、住宅、社会福祉、雇用、地方との格差などに関してさまざまな深刻な課題に直面していることは言を俟たない。将来ますます危険性が増すことが予想される災害や社会問題に対する対策も喫緊の課題である。都市はまた、交通機関から建築物の看板にいたるまで至るところに映像スクリーンが設置され、隅々にわたってSNSやAIに媒介されているように複雑にメディアと絡み合っている。このような都市のあり方が地球環境へ与える影響が計り知れないことも周知の通りであろう。

本シンポジウムでは、こうした問題を念頭に置きながら、都市の環境、(ポスト)植民地の都市、都市のメディア化にまつわるさまざまな課題に接近する3つのセッションと、大学院生を中心とする新世代パネルを通じて、未来社会に向けた都市問題とその解決の方向性について活発に議論を展開した。

1月27日[土]

●新世代パネル

【「都市」と「周縁」から考える社会のあり方：学問・医療・文学・メディア】

尾崎梨花 (名古屋大学)

「江戸と国許における学者とネットワーク：仙台藩儒大槻磐溪の学問活動と政治」

井ノ元ほのか (大阪公立大学)

「巨大都市の貧困病者と救療：1920年代～30年代の大阪を事例に」

江山 (名古屋大学)

「『農村』という空間を超えて：戦前期『家の光』の連載小説における女性表象」

間豪 (名古屋大学・ウォリック大学)

「まちづくり」時代の日本映画：文化観光、フィルム／コミッション、インフラ美学」

討論者：尹芷汐 (桐山女学園大学)

企画・司会：朴成柱 (名古屋大学)、北嶋玲子 (名古屋大学)

●セッション 1

【(ポスト) 帝国の都市】

長谷川香 (東京藝術大学)

「儀礼空間から読み解く皇都・東京」

トリストアン・グルーノ (名古屋大学)

「帝国が故郷に帰る場所：東京駅と帝都の汎帝国的創造」

ヘレン・J・S・イ (延世大学)

「国民歌謡：音、情動、ポスト植民地のソウル」

討論者：西澤泰彦 (名古屋大学)

司会：河西秀哉 (名古屋大学)

1月28日 [日]

●セッション 2

【都市環境】

ロデリック・ウィルソン (イリノイ大学)

「明治の東京計画における環境衛生について」

アンドレア・フロレス・ウルシマ (京都精華大学)

「都市環境の時空間スケール：北山杉に学ぶ物質流動と集積」

吉永明弘 (法政大学)

「都市の環境倫理：人と環境の関係的価値」

討論者：宮脇勝 (名古屋大学)

司会：岩田クリスティーナ (名古屋大学)

●セッション 3：メディア化された都市

【メディア化された都市】

アラスデア・フィリップス (ウォリック大学)

「1960年代、勅使河原の東京：移りゆく都市」

ウイニー・イー (香港大学)

「時間性、移動性、エネルギー：映画における都市香港の(非)構築」

マイケル・フィッシュ (シカゴ大学)

「電車、都市、メディア：テクノ-エコロジーへの転導的アプローチ」

討論者：ステファニー・デボア (インディアナ大学)

司会：長山智香子 (名古屋大学)

●総合討論

司会：藤木秀朗 (名古屋大学)

2. TCSセミナー



第19回

2023年6月19日[月]

「ポストヒューマン時代のメディアと芸術」

会場：名古屋大学文系総合館7階カンファレンスホール

講師：清水知子（東京藝術大学准教授）

司会：藤木秀朗（名古屋大学人文学研究科教授／超域文化社会センター長）



第20回

2023年7月21日[金]

「戦争・戦後の記憶から考える東アジアの平和への道筋：社会参加運動と創作の両輪」

会場：名古屋大学文系総合館7階カンファレンスホール

登壇者：磯貝治良（作家・評論家）、黄英治（小説家）

企画・司会：朴成柱（名古屋大学人文学研究科博士後期課程／超域文化社会センターRA）

共催：名古屋大学融合フロンティアフェロウシップ事業（アジア未来創造分野）

3. 第10回 名古屋大学・台湾大学大学院生研究交流会 「東アジアにおける人文学の流動性」

2023年9月22日[金] 台湾大学共同教学館 407教室

【第1部】 司会：飯田祐子（名古屋大学人文学研究科教授）

蔡知穎（台湾大学日本語文学系修士課程）

坂口れい子の作品における優生思想——「時計草」と「蕃地」を中心に

コメント：飯田祐子（名古屋大学人文学研究科教授）

江口航（名古屋大学人文学研究科博士前期課程）

侯孝賢作品における翻案研究の不足とその原因からの探究

コメント：王憶雲（台湾大学日本語文学系副教授）

MOREIRA DE SOUZA Beatriz（名古屋大学人文学研究科博士後期課程）

妻から母へ——明治女性文学における家制度、出産、母性に着目して

コメント：洪瑟君（台湾大学日本語文学系副教授）

【第2部】 司会：星野幸代（名古屋大学人文学研究科教授）

林祐儀（台湾大学日本語文学系修士課程）

日本語における漢語の意味変遷についての一考察——「深刻」を例として

コメント：星野幸代（名古屋大学人文学研究科教授）

呂冠儀（台湾大学日本語文学系修士課程）

修飾語としての「かわいい」とその修飾名詞について

コメント：宮地朝子（名古屋大学人文学研究科教授）

【第3部】 司会：林立萍（台湾大学日本語文学系教授）

古木龍太郎（名古屋大学人文学研究科博士前期課程）

大学紛争と学生自治会：愛知県内の学生自治会を中心に

コメント：安井伸介（台湾大学日本語文学系副教授）

岩崎はづき（名古屋大学人文学研究科博士前期課程）

日韓現代美術の比較：光州ビエンナーレと国際芸術祭あいち2022を例に

コメント：田世民（台湾大学日本語文学系副教授）



4. 「おだやかな革命」映画上映会＋対話会



2023年 5月 15日 [月]

会場：名古屋大学ナショナル・イノベーション・コンプレックス(NIC)
1階 Idea Stoa

登壇者：渡辺サトシ (映画監督)

丸山康司 (名古屋大学環境学研究所教授)

駒宮博男 (NPO 地域再生機構理事長)

企画・司会：藤木秀朗 (名古屋大学人文学研究科教授／超域文化社会センター長)

共催：名古屋大学未来社会創造機構、
名古屋大学学術研究・産学官連携推進本部スタートアップ推進室

5. 伊藤野枝というエネルギー：琵琶・語り・現代音楽



2023年 12月 13日 [水]

会場：名古屋大学ジェンダー・リサーチ・ライブラリ 2階 レクチャールーム

登壇者：飯田祐子 (名古屋大学人文学研究科教授)

フランチェスカ・ルロイ (作曲家)

久保田晶子 (薩摩琵琶奏者)

企画：飯田祐子 (名古屋大学人文学研究科教授)

主催：科研費基盤研究(C) 22K00292 「1930年前後の左翼文化運動における
再生産領域」 (研究代表者：飯田祐子)

共催：名古屋大学ジェンダー・リサーチ・ライブラリ

6. Special Seminar by Prof. Alastair Phillips: The Spaces and the Times of British Screen and Cultural Studies



2024年 2月 9日 [金]

会場：名古屋大学文学部棟 131教室

登壇者：アラステア・フィリップス (ウォリック大学教授)

共催：名古屋大学大学院人文学研究科映像学分野・専門、
名古屋大学-ウォリック大学コチュテルプログラム、
名古屋大学大学院人文学研究科メディア文化社会論分野・専門

後援：名古屋大学高等研究院